

1 早期の気付きと発見

子どもと保護者に寄り添うことから気付きへ

☆保育しにくいな、どう関わったらよいのかなと感じるお子さんはいますか。これは**保護者のしつけや育て方が原因ではない**場合があります。その子への環境を考えたり、言葉かけを工夫したりするなどの配慮が必要なお子さんもいます。

☆子どもたちが、みんなに愛されているという安心感を持ちながら、自信をもって生活できるように、**保護者の子育ての大変さを理解し**、一緒に育てていく意識が大切です。

☆子どもは、何をしても怒られると、自信をなくし、「自分はダメ」と劣等感が強くなってしまいます。ますます人と接するのが苦手にならないように、その子の**よさをほめて伸ばしていく**ことが大切です。

☆発達障害のある子どもは、**早く気付き、早く支援**すれば驚くほどの変容を示すと言われていました。困っている子どもに気付くまなざしが大切です。



こんな様子がありますか？

生活の中で

- 他のことに気をとられて着替えなどがなかなか進まない。
- 自分の持ち物をよくなくす。
- 極端な偏食がある。
- 食事のときによくこぼす。

人とのやりとりで

- 話を最後まで聞かずにすぐ行動してしまう。
- 気持ちがこもっていない話し方や聞いた言葉をまねて返す。
- 言葉が出ない、発音が不明瞭なことがある。
- 自分の話したいことだけを話す。

運動や行動で

- バランスが悪くつまずいたり、ぶつかったりする。
- 全身運動がぎこちない。
- 落ち着いて座ってられない。
- 高いところに上がるのが好き。
- かんしゃくやパニックをおこしやすい。
- いつもと違うことや新しいことがあると混乱する。
- 特定なものにこだわる。

集団生活で

- 一人で遊んでいることが多い。
- ごっこ遊びやルールのある遊びが苦手である。
- 順番が待てない。

その他

- お絵かきが苦手である。
- 手先が不器用である。
- 自分で自分を傷つける。

